

樋ノ口沢(下降)

1987年10月3日

L4

合沢の廻行終了後、営林署の作業用歩道跡をやぶこぎしながら、樋ノ口沢の上部に出て、下降開始。源頭部は一面の伐採跡地で、伐りっぱなしの無残な姿をさらけだしている。林道も深くえぐれ、あとは手をかけられることもなく、このまま放置されるのであろう。沢の水は極端に少なく、伐採跡地が保水力をもたないことが、一目でわかる。また、沢には刈り払われたままの枝がぎっしりつまっていて、歩けるものではない。

私達は、しかたなく、林道と沢を交互に歩くことになる。川床は、上部はナメ。中流から下流にかけては、滝がひとつもかからない河原が続く。下部に飲水用の取水槽があり、パイプが国道13号線わきの食堂まで引いてある。1時間程で、国道13号線に出て、下降を終える。1本尾根をへだてた合沢の様相とは、大きな違いであった。

昭和62年度の林野庁の業務計画によると、伐採された後植林し手入れをする割合は、なんと伐採地全体の14.4%でしかないという。残りは天然林と称して、自然に木が生えるのを待っているという。信じられないようなことだが、現実に行われている。私達が考えている以上に、急激に森林の荒廃が進んでいる。樋ノ口沢の伐採地は、私達に強烈な印象を与えた。

(記・)

【タイム】 下降開始(11:50)→下降終了(13:15)

